

かくにん こんちゅうるい かいせつ オンラインイベントで確認した昆虫類の解説

7月15日に実施したオンラインイベントで確認した昆虫類は29種類でした。

NO.	種名	NO.	種名
1	アオドウガネ	16	チャバネアオカメムシ
2	アオバハゴロモ	17	ツヤコガネ
3	アカアシオオアオカミキリ	18	トビケラのなかま
4	アミガサハゴロモ	19	ナミテントウ
5	イネホソミドリカスミカメ	20	ニイニイゼミ
6	エサキモンキツノカメムシ	21	ハエのなかま
7	オオヨコバイ	22	ハネカクシのなかま
8	カオジロヒゲナガゾウムシ	23	ヒゲナガカメムシ
9	カツオブシムシのなかま	24	ヒメカマキリモドキ
10	カナブン	25	ヒメカメノコテントウ
11	キイトトンボ	26	フタホシアトキリゴミムシ
12	コガタスズメバチ	27	ベッコウハゴロモ
13	コフキコガネ	28	マガリケムシヒキ
14	コメツキムシのなかま	29	ヨコバイのなかま
15	シロテンハナムグリ		

かくにん こんちゅうるい しょうかい 確認した昆虫類の紹介

○アオドウガネ

たいちょう たいしょく かがや みどりいろ せいちゅう りろいろ こうようじゅ は た
体長25mmくらい。体色は、輝きのある緑色。成虫は色々な広葉樹の葉を食べる。
せいちゅう よる うご ひかり
成虫は夜に動き、光にもよく飛んでくる。



○アオバハゴロモ

たいちょう まわ うすべにいろ うすみどりいろ はね うつく こんちゅう しょくぶつ しる
体長5.5~7mm。周りが薄紅色で薄緑色の翅が美しい昆虫。バラなどの植物の汁を
すい、弱らせることもある。幼虫は白い糸くずのようなものに覆われている。



○アカアシオオアオカミキリ

たいちょう おおがた あたま むね はね きんみどりいろ あし
体長25~30mmと大型のカミキリムシ。頭や胸、かたい翅は金緑色で、ひげや脚が
せきかっしょく うつく よる ぱれきよ あつ ひかり と
赤褐色で美しい。夜に、クヌギの樹液などに集まり、光に飛んでくることがある。



○アミガサハゴロモ

体長 10~13mm。体は、暗褐色～黒褐色。翅には細かいすじがあり、翅の端に白い模様がある。林のそばの下草やカシ類の葉の上で見られる。



○イネホソミドリカスミカメ

体長 4.5~6mm。カスミカメムシのなかまで、イネの汁を吸って弱らせる厄介者。体の色は黄緑色で、体型は細長い。ひげの根元に赤いストライプが3本ある。
<<写真無し>>

○エサキモンキツノカメムシ

体長 10~14mm。背中にあるクリーム色のハートマークがポイント。雌が卵や幼虫を見守ることも特徴の一つ。雑木林にすんでいて、ミズキやハゼノキなどの汁を餌にする。



○オオヨコバイ

体長8~10mm。黄緑色をしたきれいなヨコバイで、翅には暗褐色のはっきりしたすじがある。頭部は幅広く、頭の先に2つの黒い点がある。



○カオジロヒゲナガゾウムシ

体長7~9mm。暗灰色の体に特徴的な白い模様があり、顔も白い。「ヒゲナガゾウムシ」と名がついているが、雌雄共にひげはあまり長くならない。広葉樹の枯れ木やまき上で見られる。



○カナブン

体長23~31mm。体は銅色をしたものがほとんどだが、緑色のものなどもいる。昼間でも動きまわる。雑木林で見られ、成虫は、クヌギやコナラの樹液に集まる。



○キイトンボ

体長35~46mm。きれいな黄色で、腹部がやや太めのイトトンボ。平地から低山地の水草がいっぱい生えている池や沼で見られる。まちの中でも、環境がよい池があれば見られる。



○コガタスズメバチ

体長は、働き蜂で20~25mm、女王蜂で30mm。名前に「小型」とついているが、オオスズメバチと比べたら小さいというだけで、スズメバチのなかまの中では大型である。



○コフキコガネ

体長25~31mm。体は茶褐色で、白い粉がおちたように見え、翅は短い毛で覆われている。雄は、ひげの一部が大きく発達する。夜になると光にも飛んでくる。



○シロテンハナムグリ

体長 16~25mm。暗緑色～銅色に輝く体に、小さな白点を散りばめたハナムグリのなかま。雑木林で普通に見られ、昼間、樹液に集まるほか、夜になると光にも飛んでくる。



○チャバネアオカメムシ

体長 10~12mm。体は黄緑色で、翅が茶色だが、全体が褐色のものもある。雑木林のまわりで見られる。色々な植物の汁を吸い、その植物を弱らせてしまう。



○ツヤコガネ

体長 14~19mm。体が輝いて見えるコガネムシで、体の色は緑色から黄褐色、赤みの強いものなど様々である。成虫は落葉広葉樹の葉を食べる。



○ナミテントウ

体長4.7~8.2mm。色々な色や模様をもつものがあり、模様のないものから19個の黒い点をもつものまでいる。成虫は木の皮の裏などに集まって冬を越す。アブラムシ（植物の汁を吸って弱らせる）を餌にする人の役に立つ虫。



○ニイニイゼミ

体長20~24mm。生きている時は全身が白っぽい粉で覆われているが、頭と胸は灰褐色。幼虫や抜け殻には泥がついている。



○ヒゲナガカメムシ

体長8~9mm。体は、よく光を跳ね返す黒褐色で、長い前脚をもつ、細長いカメムシでひげが長い。エノコログサやメヒシバなどのイネ科植物やスケ類の茎で汁を吸う。



○ヒメカマキリモドキ

体長23~24mm。見た目はカマキリに似ているが、ウスバカゲロウのなかまに近い。
幼虫はクモの卵を食べ、成虫はカマキリと同じく他の小さな昆虫などを食べる。



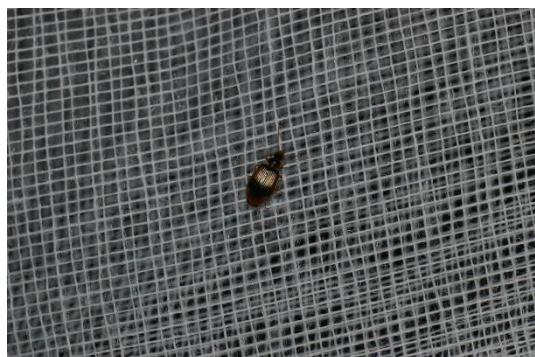
○ヒメカメノコテントウ

体長3.0~4.6mm。体は黄色で黒色の模様があるが、黒い部分がなくなって全体が黃色いものから、逆に全体が真っ黒になったものなど色々なものがいる。アブラムシ（植物の汁を吸って弱らせる）を餌にする人の役に立つ虫。



○フタホシアトキリゴミムシ

体長5mmくらい。木の上にすむゴミムシで葉の上に見られるほか、花にも集まる。硬い翅は黒色で真ん中あたりに2つの黄色い模様があるほか、翅の先は少しつわたりにくいやが黄褐色の部分がある。



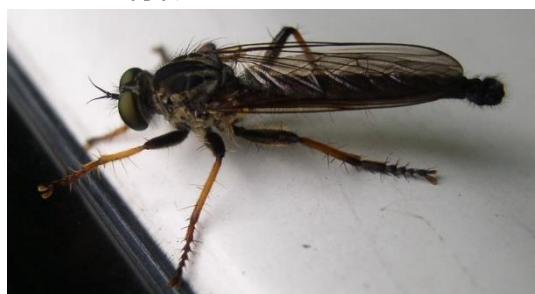
○ベッコウハゴロモ

体長 9~11mm。翅は、黄褐色～茶褐色で2本の白い模様があり、白い模様の間には1対の黒い点がある。幼虫は白い糸くずのようなものに覆われている。クズやウツギなどの葉の上で見られる。



○マガリケムシヒキ

体長 15~20mm の小型のムシヒキアブ。他のムシヒキアブと比べて体がほっそりしている。脚全体が黄色くなるのが特徴。



●参考文献●

- ・黒沢良彦, 日高敏隆 編 (1967) 原色昆虫百科図鑑. 小学館.
- ・上野俊一, 黒澤良彦, 佐藤正孝 編著 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (II), 保育社.
- ・黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之 編著 (1985) 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社.
- ・林匡夫, 森本桂, 木元新作 編著 (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV), 保育社.
- ・岡島秀治, 海野和男 (1983) 自然観察シリーズ 15 <生態編> 日本の甲虫. 小学館.
- ・友国雅章 監修 (1993) 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会.
- ・石原保 監修 (1983) 学研生物図鑑 昆虫 III (バッタ・ハチ・セミ・トンボほか). 学習研究社.
- ・伊藤修四郎, 奥谷禎一, 日浦勇 編著 (1977) 原色日本昆虫図鑑 (下巻) 全改訂新版. 保育社.
- ・槐真史 (編) (2013) ポケット図鑑日本の昆虫 1400 2.トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版.